

●R6年度滋賀県が本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標及び達成度を測る指標

実施自治体名	課題の類型1	課題の類型2	背景・現状・課題の詳細	これまでの取組状況	左記課題の解決のために令和6年度に実施する具体的な取組	本事業で達成する目標(アウトカム)	目標の達成度を測る指標	現状の数	単位	本年度の目標値
25_滋賀県	①学校運営上の課題	教職員の時間外勤務の是正	教職員の時間外勤務が深刻な状況となっている。時間外勤務の縮減や働きやすい職場づくりによって「学校における働き方改革」を進めることが課題となっている。	県が直接実施する「研修会」や「CSアドバイザー派遣」を通して、市町のニーズに応じた伴走支援を続けてきた。	継続して、県が直接実施する「研修会」や「CSアドバイザー派遣」を通して、地域と学校が連携協働することのよさを伝えていく。地域と学校の連携協働によって、現在教職員が担っている業務を地域学校協働活動推進員や地域コーディネーター、ボランティア等と分担したり、協力して行う。	地域と学校の連携協働によって教職員の業務負担が軽減され、「学校における働き方改革」につながる。	・「今年度の地域と学校の連携協働の取組によって、『学校における働き方改革』につながっている。」と回答する学校のパーセンテージ	70.3	%	72
25_滋賀県	①学校運営上の課題	社会に開かれた教育課程への対応	社会に開かれた教育課程についての教職員の理解が進んでいない。地域と学校の連携協働によって、子どもたちの主体的な学びや学びの深まりを保障することが課題となっている。	県が直接実施する「研修会」や「CSアドバイザー派遣」を通して、市町のニーズに応じた伴走支援を続けてきた。	継続して、県が直接実施する「研修会」や「CSアドバイザー派遣」を通して、社会に開かれた教育課程の理念や地域と学校が連携協働することのよさについて伝え、教職員の理解を深める。	地域と学校の連携協働によって社会に開かれた教育課程が実現し、そのことで、子どもたちが主体的に学んだり、学びを深めたりすることができる。	・「今年度の地域と学校の連携協働の取組によって、子どもの主体的な学びにつながったり、子どもの学びが深まったりしている。」と回答する学校のパーセンテージ	85.7	%	87